

CDP322(1)「アート・パフォーマンス」(担当：上念省三講師)

2014年度前期 ゲストスピーカー講義内容について

■5月14日(水)：金満里さん

身体障害者による身体表現グループである「劇団態変」を主宰しておられる金満里さんをお招きし、コントロールできる身体とコントロールできない身体といった対比から、過去の公演の貴重な映像を見ながら、障害を持った身体でなければ獲得できない動きを発見し、障害を謳歌する身体観という地点まで、非常にダイナミックで衝撃的な講義をいただきました。

★★ 受講生の感想 ★★

- 最も印象的だったのは、「醜さ」を「美しく」するのではなく、「醜さ」そのものに力があることを見せる、というものでした。今日そのことに気付けたことは、私にとって本当に貴重な経験となりました。
- 障害というものをいかに自身の強みに転換し、表現者としてより高次元パフォーマンスができるのかを、とても丁寧に、洗練された言葉で語ってくださり、共感した部分、考えさせられた部分が多々ありました。



■6月11日(水)：笠谷菜月さん

西宮市文化振興財団の笠谷菜月さんをお招きし、公務員として文化行政に携わる中でのご苦労ややりがいなどについて、担当しておられるクラシック音楽のコンサートなどの例を引きながら、詳しく講義いただきました。

特に笠谷さんがデザインされたコンサートのチラシについての意見、改善すべき点などを求められたことで、実際の仕事の内容について自分のことのように考えられたことは、意義深いことでした。

受講生にとって年齢的にも近く、親近感を覚えたせいか、講義終了後も公務員試験のことについてなど、いろいろな質問に丁寧に答えてくださいました。

★★ 受講生の感想 ★★

- 本日も話いただいた仕事の内容が、まさに私の憧れていたものだったので、とてもとても参考になりました。具体的な仕事内容や実際に仕事を行っているご本人の視点を知ることができて、就職活動に対するビジョンが明るくなりました。



■6月25日(水)：サイトウマコトさん

ダンサー・振付家のサイトウマコトさんをお招きし、コンテンポラリー・ダンスのワークショップを体験しました。ダンスというものを知ること、ワークショップを知ること、そしてダンス未経験の人がワークショップを経験してどのような変化を感じるかを体験してもらうことが目的でした。

ストレッチ、簡単な動きから二人ペアになってのコンタクト、全員でのユニゾンと、短い時間でしたが一つのダンスカンパニーとなったような楽しい時間でした。

★★ 受講生の感想 ★★

- 身体表現の難しさも、「でも意外にできた」感も、どちらも体験することができました。正直最初は自分が踊れるとは思わなかった。とても気恥ずかしいものだと思いましたが、踊りによって生まれる力やその方向性を考えていくだけで夢中になって、恥ずかしさを感じる暇もなく、身体を動かすことができました。
- 今まで私は、ダンスの動きは体の柔軟性や豊かな運動神経等を持ち合わせていないと成立させることができないと考えていましたが、決してそういうわけではなかったのです。私のようにあまり運動が得意でないような人にも楽しめるという発見は、大変すばらしいと思えました。



■7月16日(水)：善竹忠亮さん

能楽師・狂言方の善竹忠亮さんをお招きし、能楽・狂言の歴史、能と狂言の関係、能舞台の空間の特徴などについて、実際に舞台上に立っておられる方ならではの、生々しくまた厳しいお話を伺うことができました。

実は体調を崩された後だったのですが、そのこと自体を狂言の内容と重ね合わせたり、笑いの種としたりする姿にもプロ意識の片鱗を感じ、強い印象を受けました。

★★ 受講生の感想 ★★

- 「狂言とは、長きにわたる人間観察に基づいた人間の普遍的な心理を、型によって演じるものだ」という言葉には、なるほどと感心しました。普遍的なものを表現しているからこそ、能・狂言は現代にまで受け継がれ、親しまれているのだと思えました。
- 「人間観察」という話が印象的で、では狂言を演じている者として善竹さんは我々をどのように見ているのかが気になったのですが、それと合わせて大鼓は「力を抜かねば響かない」というお話に、非常に強く共感しました。力んでいては何ごとも響かない……力の抜き方を知ること、冷静な人間観察ということが、相通じているように思えました。

